

志望校選択のためのキーワード

先月までに全学年で第一回目の進路説明会を実施しました。今回はその時に触れた志望校選択の6つの視点についてもう一度確認します。なお生徒諸君に書いてもらった振り返りシートについては一つ一つ参考にして次回の進路説明会に活かしたいと考えています。

1 学問分野

志望学部をどう選ぶかについて、具体的に『逆引き大学辞典』（廣告社）を使って検索する方法について説明しました。①使い方を読むまたはインターネット版を活用する。②「自分コンパス」で適性診断をする。③「概観MAP」を見て各系統の中で興味を持つような学問分野を選ぶ、④選んだ学問分野の説明をSTEP1で読む、⑤④で関心を持つような学問分野の学科及び大学についてSTEP3で検索する。⑥その中で気になる大学についてHPを調べるまたは資料を取り寄せる。⑦これ以外に「学科索引」でキーワードをもとに検索する方法もあります。教室設置の『蛭雪時代』4月増刊号も参考にしましょう。

2 就職

大学生の就活は好転しているものの、依然有名校有利の状況は変わりません。大学選びがその先の将来にも大きく影響しているのです。しかし大学は就職予備校ではありませんし、大学選びが職業選びに直結しなければならないという訳ではありません。大切なのは、「資格が必要か否か」と「人と交わる職業か、ものに関わる職業か」を明確にすることです。

3 場所

大学の所在地のことです。多感な青年期を暮した場所はその後の人生に大きく影響すると考えます。「一人暮らしか親元から通うか」と「地方か都会か」の二つの指標で考えてみましょう。特に「自立」を果たすことが大学時代の課題と考えて判断して欲しいものです。

4 校風

大学はそれぞれ個性を持った学問の場です。国公立大学、私立大学、または専門学校の違いもさることながら、学校の歴史・卒業生・キャンパス・行事など特徴を調べましょう。夏休みに行われるオープンキャンパスはそれがよくわかる機会です。

5 学力

入試学力のことです。模擬試験での判定や進研模試であればGTZの評価を判断材料とします。ただし、3年生のマーク模試では偏差値だけではなく、得点率の推移についても目標値として注意してほしい。また、一般入試以外に推薦入試やAO入試も考慮に入れ幅広い学力の向上を考えるとよいでしょう。

(文責：今井雅)

11年の窓

2年生からの文理選択に向け、第1回希望調査を実施しました。その選択は将来の職業、学びたい学問に結びついていますか？まだ、はっきり進路を決めていない人は、苦手な科目を避けて文理選択をしたかもしれません。このように消去法で考えてしまうと将来の可能性を大きく限定してしまうかもしれません。苦手科目は1年生の今からなら取組み方次第で克服できるかもしれません。簡単にあきらめてしまうのではなく、まずは自分がやりたいことや就きたい仕事から文系・理系を考えてみましょう。

情報の授業で職業調べをしましたもうすぐ始まる夏休みにも職業調べを深め、大学研究、出来ればオープンキャンパスに参加してみるなど文理選択を誤らないように夏休みを有効に使いましょう。また、家族と未来の大学生活についてもゆっくり話し合う機会にしてもいいですね。

(文責：西崎)

12年の窓

進研記述模試が終了しました。自己採点の結果はどうだったでしょうか。間違えた問題の解き直しはやってありますか？解き直しをするまでが模試。自己採点までで満足しては不十分です。やっていない人は早急に！

さて、皆さんは今回の模試を受ける前にどれくらい過去問を解きましたか？「模試なんだから実力で受ければ大丈夫」なんて言って、配られた過去問をやらずに挑む…などという事は行っていいのでしょうか？模試を部活に例えると、全国大会のようなもの。全国大会に出場するとなったら、日々練習を重ね、相手の戦法を検証し、対策を練って挑みますよね。勝利のためには、過去のデータは貴重なアイテムです。そんなアイテム(=過去問)を放置すること無く活用し、次の試合(=11月進研記述)で勝利(=高得点)をおさめられるように取り組んでいきましょう！

(文責：堀内)

13年の窓 高校生最後の夏！如何に過ごすべきか？

もうすぐ夏休みです。多治見高校の生徒ならもちろん計画的に受験生として自覚をもって日々、精進していってけると信じています。ただ、中にはどのように過ごせばいいかわからない…。と困っている人もいるでしょう。やはり計画的に過ごさないと何も身につかないまま、あっという間に過ぎ去ってしまいますよ。そこで是非、取り組んでもらいたいことを紹介します。

1つ目は、この夏休みが基礎・基本の確認、定着のラストチャンスです。よくセンター試験の6割弱は2年生の学習範囲で解けると言われます。基礎基本を確実に解き、取りこぼしをしないようにすることが合格へ第一歩です。そして、この基礎基本は、9月から入試問題を解くための力へと発展させていかねばならないとても重要な力です。

2つ目は、3者懇談や模試分析で指摘された自分の苦手科目、分野を把握してください！そして、それを克服するために何をすればいいのを知り、実行してってください。苦手科目や分野にどう取り組めばいいか、分からない場合は各教科担任に自ら足を運んでみることも必要だと思います！以上の2点を重点的に取り組んでもらえるように、今年度は夏季希望者補習を1週間伸ばし(約2週間)、基礎基本の定着確認や応用問題演習などを学校で学べるようにしました！午前は学校で補習、午後は自習または桔梗祭準備というようなライフサイクルで計画的に取り組み、自分の学力を確実に伸ばし、蓄えていってほしいです。夏に鍛えた学力が11月、12月の直前での伸びに確実に繋がります！

さあ、やろう！！

(文責 波勢)

○文系の窓○ わかっている？経済学部、経営学部、商学部の違い

社会学系と言えば、法、経営、経済、商、社会、国際、社会福祉などあります。これらの明確な違いを把握していますか？経済、商、経営は何が違うのと聞けばほとんどの生徒が答えられないと思いますので、確認していききたいと思います！

まず、共通点はどの学部も「経済に関する幅広い知識」を扱う点です。たとえ経営学部に行っても経済の知識が必要なのです。

次に、それぞれの特徴(相違点)を紹介します。経済学部は、「経済の理論」を学ぶことを主の目的とした学部です。つまり、「経済の仕組み」を知っていく学部ですね。具体的にはマクロ経済学、ミクロ経済学などを学んでいくのですが、幅が広い経済学は大学や教授の専門によって取り扱わない経済学もあるようです。そして、よく言われるのは数学の力が必要ということ。特に統計学は数学的な力が必須です。

経営学部と商学部は共に企業経営を学ぶことは共通していますが、経営学部は企業や組織のマネジメントを学びます。一方で、商学部はビジネス全般の知識を学びます。具体的にはマーケティングや流通などが中心です。よって、経営学部は企業という組織を内部から知っていくこと、商学部は市場や流通などの外部から企業を知っていくことが違います。最後に進学先の大学に3つの学部がある場合は、学部を超えて履修することが可能な大学がほとんどです。もし、運よく3つの学部ある場合は、興味がある科目を履修してみるのも知識幅を広げる意味でもありだと思います。(文責:波勢)

○理系の窓○

前号では、資源が乏しい日本について、近い未来のエネルギー研究として、水素を取り上げました。今度はさらに数十年先のエネルギー研究として核融合を取り上げます。

土岐市に研究施設があるため、皆さんも名前は知っていると思いますが、実は核融合はまだ十分に研究されていません。しかし、将来性のある分野なのです。まず、第一に発生するエネルギーが非常に大きいということです。核融合発電の燃料(主に水素)1グラムが発生させるエネルギーは石油8トンを燃やした場合に発生するエネルギーとほぼ同じ大きさです。将来の化石燃料の枯渇を考えると非常に魅力的ですね。第二に安全性についてです。原子力発電は核反応のコントロールを失敗すると、反応が加速して止まらない臨界という暴走が生じる危険があります。しかし、温度を1億度以上に保つ必要がある核融合は、何かしらの問題で施設が止まると、温度が低下し自動で反応が停止します。原子力に比べて安全性が高いといわれるのはこの点です。第三に高レベル放射性廃棄物が生じない点が挙げられます。核融合でも中性子が炉壁に当たるため、炉壁が放射線を放つようになってしまいます。しかし、炉壁の素材に工夫を加えることで、原子炉のように長い間放射線を出し続けられないようにすることが出来ます。

このようにいいこと尽くめのように感じる核融合ですが、燃料を1億度までに引き上げる技術や電気を帯びているプラズマを電磁石によってドーナツ状に回転させ続ける技術など、まだまだ研究途中なものが多々あります。また、そのほとんどが最先端の研究です。多治見高校を卒業した先輩もこの研究に関わっています。みなさんも未来を変える研究に参加しませんか？(文責:竹腰)

☑総合学習の扉☑

夏休みに情報収集を！

ゼミ学習のテーマ設定はできたでしょうか。不安の残る人は、ゼミ担当の先生にテーマについて相談する時間をとりましょう。今後の予定は、テーマを決める→活動計画をたてる→夏休み中に情報収集→集めた情報をもとに研究活動を進める、という流れです。夏休みの情報収集をサボるとその後の研究活動が大幅に遅れますし、とても大変です。そこで今回は、夏休みの情報収集のヒントを紹介します。

1. 図書館を積極的に使いましょう。本は情報源としての信頼性が高いため、研究活動には欠かせません。目当ての資料がうまく見つからない時には、「レファレンス・サービス」といって、図書館の司書さんに相談することができます。さらに、図書館は学習の場としても利用可能です。多治見高校や公共の図書館へぜひ足を運んでみましょう。

2. ウェブサイトは慎重に使いましょう。情報源として、身近で、手軽なインターネットですが、その信頼度はさまざま。信頼度が「低い」と決めつけることはできませんが、有益な情報がある一方で、不確かな情報や誤った情報が混在していることも確かです。ウェブサイトを利用する際は次の点に注意しましょう。①開設者・運営組織の情報が開示されているか。②引用や参考文献など情報源が明記されているか。③広告が多すぎないか。広告と内容が区別できるか。この3点を踏まえて、信頼できる情報源なのかを見抜く力をつけましょう。(文責:谷)

○Book Review○

『時間と学費をムダにしない大学選び2016』(石渡嶺司+山内太地 中央公論新社)

世間一般では、「生徒に読ませたい本」のコーナーでは文学作品を挙げるように。」との空気が醸成されているのですが、あっさりスルーします。世間が何と言おうと、今現在生徒の皆さんに一番読んでもらいたい本と言えばこの本です。

作者2人は実際に日本全国の大学を訪れて取材しており、その数は2人合わせて1000校以上(そんなに大学があることが既に驚きですが・・・)、その取材量は半端ではありません。その超辛口な分析には多少誇張した表現や偏見も入っているとは思いますが、本当に細かい事まで調べている上に、通常の大学情報誌では、悪い言い方になってしまいますが、“取材する側とされる側の馴合い”というか中々書きづらいこともあるでしょう。それに対して、本書はいかにも大学側が触れて欲しくなさそうなところにもズバズバ切りこんでいます。盲信せず話半分に聞いておくにしても知っておきたい情報が満載です。

情報量が多すぎて、1日や2日で1冊読み切るとは無理ですが、**将来就きたい仕事のジャンル別に編集してあるので、自分の興味あるところだけ読めば十分です。**また、**進路未定者用の章もあります。**各大学のことだけでなく、その業界の採用事情もよく分かり、各業界を目指す高校生が今読んでおいた方がよい本の紹介もあります。客観的データに基づいた比較、珍しい学部学科の紹介、毒を混ぜた筆者の語り、数ある大学紹介雑誌とは良くも悪くも一線を画しています。図書館に置いてあるので一度読んでみるとよいでしょう。

関係ないけど、作者の1人は中津高校の卒業生です。(文責:鈴木)

